

明治神宮ミュージアム

隈研吾設計の最新ミュージアムがオープン！

2019年10月26日、東京・原宿駅にほど近い明治神宮内苑に#)明治神宮ミュージアム#*が開館。

100年の杜に溶け込むような建築が誕生しました。

明治神宮内にはすでに二つの美術館があります（宝物館・重要文化財と別館・重要文化財）。

今回の明治神宮ミュージアムは三つ目のミュージアムになります）



南参道からミュージアムを見る。抑えたダークグレーの外装が周囲の緑に同化し、先端2cmの薄い軒が木の葉のように漂う。

明治神宮100年（2020年）を記念し、つくられた
明治神宮ミュージアム、
最新の設備を備えたミュージアムになる

展示の基本

- 1 明治の歴史的側面訴求にプラスし「美しい」をベースに展示
- 2 日本人の自然観、審美を感じられる展示

日本美学の中心・・・所作が美しい
細部にこだわる。美は細部にやどります！
折り目正しさが美を支えている

明治神宮の南参道に位置する神橋。10月26日、そのもとに同宮のご祭神である明治天皇と昭憲皇太后にゆかりの品々を展示する#)明治神宮ミュージアム#*が開館した。設計を手がけたのは、隈研吾。コンテポラリーでありながらも和の意匠を呈する鉄筋コンクリート造・鉄骨造の2階建てで、3つの展示室と伸びやかなロビーを内包する。

設計にあたり、隈が重視したのは杜との関係性。100年以上の歳月をかけ整備してきた緑の景観を損ねることなく、そこに溶け込むような建築を模索したという。結果、導き出されたのが日本伝統の入母屋造。建物全体の高さを抑えるのはもちろん、杜に向かって伸びる四方の軒を低く収められ、同時に内部空間を大きくとれることが決め手となった。



架構が現しになったメインロビー。リズムカルに並ぶ柱が杜の木立を、床に敷かれた薄灰色の御影石が境内の玉砂利を思わせる。神社でよく見られる、垂木の木口を白く塗る手法を踏襲し、構造体である鉄骨梁の下面を白く塗っているのが印象的だ。

薄く軽やかな軒をくぐり、館内に一歩足を踏み入れると、まず驚くのはその開放感。最高高さ約7mのメインロビーでは、大きくとられた開口が杜の緑を大胆に切り取り、現しの梁を支える柱がリズムカルに並ぶ。その連なりは、外壁を構成するルーバー、さらには周囲の木立と呼応し、内と外がゆるやかにつながっていく。

一方、展示の中心は、2階に設けられた常設の宝物展示室だ。東日本大震災で被害を受けた屋根の修復と耐震工事のため、現在閉館中の#)宝物殿#*から移してきた宝物類の中でも、必見は大日本帝国憲法が発布された日に明治天皇が乗ったとされる六頭曳儀装車（ろくとうびぎぞうしゃ）。隈は、かつてこの馬車が置かれていた展示室を模して、ヴォールトの格天井を新たな解釈の下、再現している。

